第69回 日本唾液腺学会総会・学術集会報告

会長：大上 研二（東海大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
副会長：湊 宏（石川県立中央病院病理診断科）

2025年12月13日（土）、第69回日本唾液腺学会総会・学術集会を、国際ファッションセンタービル（東京都墨田区）にて開催いたしました。全国各地より多数の会員の皆様にご参加いただき、活発な討論と交流のもと、盛会裡に終了することができました。

本学会は、唾液・唾液腺に関わる基礎研究から臨床、病理、歯科・医科連携に至るまで、多領域・多職種が一堂に会する学術集会として発展してまいりました。本年もその特色を反映し、基礎医学、臨床医学、病理診断学、歯学、薬学など多様な分野からの発表が行われ、唾液腺疾患に対する包括的理解を深める貴重な機会となりました。

特別講演では、高野賢一教授（札幌医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）にご登壇いただき、「IgG4関連疾患新展開」と題したご講演を賜りました。疾患の歴史、これまでの研究成果とともに、全身の関連疾患などの研究成果を基盤に、最新の診断・治療について示唆に富む内容が提示されました。とてもわかり易く、会員にとって極めて有意義な講演となりました。

企業共催ランチョンセミナーは、アース製薬共催で「未来の口腔ケアが変わる！除菌消臭成分MA-T®との出会いとその可能性 ～オリンピック・内閣総理大臣賞から万博・医療・介護・動物医療へと広がる力～」と題し、阪井丘芳教授（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学講座）にご講演をいただきました。開発の経緯から多方面での応用まで、非常に興味深い内容であり、ますますの発展が期待されます。

シンポジウムでは、「唾液腺導管癌・基礎研究と臨床の融合　～本邦発多施設共同研究の軌跡と挑戦～」をテーマに掲げ、長尾俊孝理事長、多田雄一郎理事のご司会のもと、世界に類を見ない多数の症例を集積してのSDC研究会のこれまでの軌跡を辿っていただきました。臨床病理学的予後因子、組織学的予後因子、分子病理診断、分子標的薬の発展、腫瘍進展と自律神経の関連、将来へ向けての展望など、多岐にわたる最新のトピックスについて、各専門領域を代表する演者の先生方より最新知見をご紹介いただきました。欧米のガイドラインの根拠になるエビデンスが日本から発信されることの重要性を再認識しました。

一般演題では、基礎的研究、臨床的研究および病理診断学的研究、症例検討など、多数の演題をご応募いただきました。いずれの発表も質が高く、活発な質疑応答が行われ、若手研究者・臨床医にとっても大きな刺激となったことと思います。学会奨励賞には、基礎部門で大野実来先生(日本歯科大

学新潟生命研究科顎口腔全身関連治療学)、臨床部門で石津裕梨先生（名古屋大学大学院病態構造解析学）が受賞され、受賞講演も行われました。今後のさらなる研究発展が期待されます。

総会では、学会運営に関する報告および審議が行われ、各議案は滞りなく承認されました。議題として、日本唾液腺学会70周年記念として『唾液腺腫瘍アトラス第2版』（日本唾液腺学会編）の発刊予定、第68回学術集会の決算会計と監査結果、並びに2026年度の予算計画が提示・報告されました。

役員改選では、４年間務められた長尾理事長に代わり、阪井丘芳先生が理事長に、吉垣純子先生が副理事長に選任されました。また、森田貴雄先生、中黒匡人先生が新理事に選出されました。河合繁夫先生の参与就任、および鈴木健介先生、川北大介先生、田中準一先生が新評議員として推薦されました。新役員体制のもと、学会のさらなる発展に向け、会員一同で認識を新たにする機会となりました。

最後になりましたが、本学術集会の開催にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました関係各位、ならびにご参加いただいた会員の皆様に、会長として心より御礼申し上げます。

次回、第70回学術集会は、湊 宏先生（石川県立中央病院病理診断科）が会長を務め、2026年12月12日（土）に同じく国際ファッションセンターで開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしており ます。

本学会が今後も唾液腺研究・診療の発展に寄与し続けることを祈念するとともに、引き続き皆様の積極的なご参加とご支援をお願い申し上げます。